

さく ぶん ぶ もん にゆう しょう さく ひん  
作文部門入賞作品

ない かく そう り だい じん しょう  
内閣総理大臣賞

作文



のう か う  
「農家に生まれて」

あき たけんあきた しりつ お の ぼ  
秋田県秋田市立御野場中学校2年 鈴木 唯



私の家は、農家です。家族全員で作業をしています。

春には、種まきと田植えがあります。種まきは、種もみをまいてその上に土をか  
けます。種もみをまいたり、土をかけたるときは、全体が均一になるように気  
をつけます。でも、私はうまくできなくて、怒られることがありました。

生長した苗を田んぼに植えます。私は、だしという入れ物を洗う係です。だしに  
ついている苗の根や土を、ブラシで落としてきれいにします。洗うときは、中腰の  
まま洗うのでとてもつらいです。洗い終わったと喜んでいるうちに、まただしが増え  
ていて、とてもうんざりした気持ちになります。洗い方が雑だったり、もたもたし  
たりしていると、すぐに怒られてしまいます。田んぼに行つて作業すると、みんな  
必死になっているので、順調に作業ができないと、ついイライラしてしまうのです。  
私にとって、一年間で一番大変な数日です。

夏には、草刈りがあります。父は仕事が終わったあと、すぐ田んぼに行つて暗く  
なるまで帰つてきません。また、父は、休みの日も一日中、田んぼで作業しています。  
父が帰つてくると、服がぐっしょりとぬれていて、父のがんばりが伝わってきます。  
どんなにか大変だろうと思うのに、父は愚痴一つ言ったことがありません。自分の  
田んぼに、誇りをもっているのだと思います。

秋には、稲刈りがあります。私は機械が稲を刈りやすいようにかまで稲を刈つた  
り、稲穂を入れる袋の準備をしたりします。父は、機械で稲を刈つていき、母や兄  
はずつしりと重い稲穂の入った袋を軽トラックに運びます。稲刈りがすべて終わつ  
たときには、辺りが暗くなっていました。

その日の夕食に、新米ができました。とてもつやつやとしていて、きれいで、ふつく  
らとしていて、おいしそうでした。食べてみると甘く、もっちりとしていて、この上  
なくおいしいものです。家族全員が、最高の笑顔を見せる瞬間です。私は、このお  
米のおいしさは、新米だからという理由だけではないと思います。自分も家族と一  
緒にがんばつて作業をしたからこそ、おいしさが何倍にもなったのだと思いました。  
お米は、家族の結び付きを強くしてくれるのでしょう。

私は、小さいころから田んぼに行っていました。田んぼの四季の変化とともに、  
私の日々の成長もあったのだと思います。いつも田んぼに行つて家族が作業してい  
るとき、一人だけで遊んでいてつまらないと思うことがありました。だんだん大き  
くなり、手伝いをするようになると、楽しいこともありました。楽しくないこと  
もたくさんありました。がんばつてやっているのに怒られたり、うまくできない自  
分にイライラしたり、田んぼに行くのがいやになることもありました。ゴールデン  
ウィークには、友達旅行に行く人が多いのに、私は田んぼで泥まみれです。友達  
がともうらやましかつたです。農家に生まれなければよかったと、思うときもあ  
りました。でも、今は田んぼはすてきな所だと思えます。自然の美しさ、けなげさ  
を感じ、家族の温かさをたくさん味わってきました。また、小さな発見があったり、  
生き物を身近に感じたりすることがあります。旅行では体験できないことを、田  
んぼを通じてたくさん体験できたと思います。それは、とても幸せなことです。

私は、これからも田んぼを通じて、たくさんのかんことを体験するでしょう。それは  
楽しいことばかりではなく、つらいこと、面倒なこともたくさんあると思います。  
でも、私は幸せな思いを胸に、家族と一緒にがんばつていきたいです。

私は、農家に生まれてよかったです。